

なかよし班活動

本校では、特色ある教育活動の一つとして「なかよし班活動」に取り組んでいます。なかよし班活動は異学年交流を通して、互いのよさを認め合い、協力・実践力・思いやりの心・責任感を育てることを目的としています。特に5・6年生はなかよし班の班長や副班長として下級生をまとめ、班をリードする役割を担っています。しかし、今年度の1学期は感染症予防のため、実際になかよし班で集まって活動できたのは1回だけでした。2学期も感染状況によっては活動が難しくなる可能性があると考え、2学期は5・6年生のなかよし班委員会が中心となり、毎月一回 Teams を活用した遊びを企画しました。投げ当てゲーム・先生クイズ・ハロウィンビンゴ大会・ステレオゲームの4つの遊びについて、全学年が楽しめる内容を委員会で話し合っ準備を進め、発表することができました。当日は各教室からゲームで盛り上がる声がたくさん聞こえてきました。3学期は、なかよし班の6年生に向けて1～5年生が卒業のお祝いや感謝の気持ちを込めたメッセージカードを作成し、6年生を送る会後にプレゼントしました。来年度も年間を通して、なかよし班での繋がりを大切にしていきたいと思います。

(特別活動主任 内田 愛)

研究授業 2年

「あそんで ためして くふうして」

2月10日(木)に今年度最後の研究授業を行いました。今年度の研究主題「主体的に学習に取り組む児童の育成」を受けて、2年生では身近な物を使っておもちゃを作る活動を設定しました。12月から御家庭で不要になった空き箱やペットボトル、空き缶などを集めたり、集めた物を形で仲間分けしたりして準備をしました。保護者の皆様、御協力ありがとうございました。おもちゃ作りでは、手本を見ながら真似をしたり友達と話し合ったりしながら作業を進め、動くおもちゃが完成しました。

当日の授業では、ゴムや風を利用して動くおもちゃを「パワーアップ」することを目指し、子供たちは試行錯誤をしながら改良をしていました。その姿はまさに主体的な学習でした。結果的に「パワーダウン」してしまった児童も数名いましたが、振り返りカードに「次の時間こそパワーアップしたいです。」と書かれていたことから、失敗しても諦めることなく、高い意欲をもち続けられたことに成長を感じます。生活科の学習だけではなく、算数科では難しい問題を粘り強く考えて自分で答えを導き出そうとする姿も見られました。国語科では、文章を書く時に書き終えた文章を読み直してよりよくしようとしていました。このように校内研究で取り組んだことが、他の教科でも生かされていることを嬉しく感じます。

来年度以降も校内研究は続きます。子供たちがどのような成長をしていくのか、今から楽しみです。



(2年担任 吉原 信介 岩田 寛子 長谷川 里菜)

今年度の研究について

今年度の本校の研究テーマは「主体性の育成」でした。このテーマには「人から言われて勉強するのではなく、疑問や不思議に感じたことを自らすすんで調べたり学んだりできるような児童に育ててほしい」という願いが込められています。そのような児童の姿勢を育むために、本校の教員は従来行っていた授業とは異なる授業スタイルを模索してきました。私たちはこれまではいかに上手に「教えるか」を大切にしてきました。しかし、先日の教員研修会で講師の先生から「これからの教員に求められる役割は『教えること』と『まかせること』だ」と御指導いただきました。何事も大人が手取り足取り教えてあげるのではなく、ときには児童に「まかせること」が児童の主体性を育む上で大切だということです。「可愛い子には旅をさせよ」「獅子の子落とし」ということわざに似たようなものを感じます。一方、私たち教員は、旅をさせっぱなし・崖に落としっぱなしにするのではなく、裏で支えたり、環境を整えたり、成長を褒めたりすることも大切です。

これからの予測不可能な時代を生きていく子供たちに必要なのはどのような力なのかを考え、今後も本校の教員は、「よりよい授業」を追い求めて主体的に取り組んでいきます。

(研究主任 黒田 兼正)